

Q

## 鶴ヶ島の将来は

おおよそねひであき  
大曾根英明

議員



A

## 鶴ヶ島の元気を将来につなげていきたい

問 10年後・20年後を見据えた人口動向について。

答 鶴ヶ島市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定時に推計した市の将来人口は、平成37年度が6万8950人、47年度が6万4164人である。総合戦略における目標人口については、37年度が推計値より2075人多い7万1025人、47年度が4697人多い6

万8861人としている。

問 これからの公共事業と施設管理について。

答 26年12月に鶴ヶ島市公共施設等利用計画を策定した。29年3月には、道路、公園等のインフラ系施設もこの計画に位置付け、公共施設等総合管理計画として基本的な考え方を示した。建物施設については、32年度末を目標に、総量



抑制に向けた施設種類ごとの実施計画を策定する。

問 コンパクトシティについて。

答 31年度の立地適正化計画の策定に向けた検討を進めている。コンパクトなまちづくりのため、市街化区域内に誘導区域を設定し、居住及び都市施設の緩やかな誘導を図る。これにより、誘導区域内の人口密度を維持し、インフラ整備を効率化するとともに、商業施設等の撤退を防ぐなど、都市の持続性を高めることが期待される。

Q

## 市長の今後の施策の方向性について

ふじわら けんし  
藤原 建志 議員



A

## 企業誘致や市有財産の有効活用などで財政基盤を確立する

問 行政・財政について。

答 企業誘致、土地区画整理事業の完了、子育て環境や教育環境の整備をし、市税の増収を図る。

問 子育て・教育について。

答 子育て世代包括支援（鶴ヶ島版ネウボラ）、産婦人科医院の誘致により、母子保健と子育て支援の充実を図る。教育では、ICT環境の整備、グローバル化に対応する英語教育等が重要である。また、新体育館整備構想の検討を進める。

問 市民生活・市民活動における支え合いに対する一層の支援と自治会の活性化の取組は。

答 各地域の特色に応じた活動を財政的・人的な支援や活動への提

案によりサポートすることで、自治会の活性化や地域支え合い協議会の発展を促す。

問 健康福祉・高齢者への対応について。

答 健康寿命の延伸に向け、年代に合った健康づくり運動を普及・定着させる。介護ボランティア等の地域で健康づくりを担う人材の育成と活動の支援を行う。

問 産業について。

答 高齢化や後継者不足等、農業の課題はあるが、各農家と向き合い、支援する。また、企業誘致の推進では、農大跡地に限らず、産業用地確保に向けた検討を進める。



本会議中の様子